

「生活工学」授業評価報告書

技術教育・大西 義浩

1. 授業の概観

本科目は高等学校家庭科教員免許の必修科目であり，3回生後期の開講である。3回生の初等教育コース小学校サブコース7名，中等教育コース家政教育専攻4名に加えて，4回生の総合人間形成課程3名の計14名が履修し，うち12名が単位を修得した。

2. 授業内容

本科目は，これまで他学部教員が学内非常勤として担当しており，報告者は今年度初めての担当となった。前述の通り，高等学校家庭科教員免許に必須となる科目ではあるが，現在の学習指導要領からは，陽に対象となる単元が無くなっており，どのような授業内容とすべきかの検討を必要とした。免許法上では「家庭電気・機械及び情報処理」の分野に相当する内容であり，機械，電気，情報処理を対象とする必要がある。しかしながら，中学校技術や高等学校工業で必要となる内容とは異なり，あくまで生活者としてこれらの分野をとらえる視点が重要だと考えた。この分野を対象とする教科書も市販されているが，いずれも出版年月が古く，最新の情報は含まれていない。これらの分野，特に情報関連分野の技術革新は速く，我々の生活にも影響を与えている。以上のことから，通常使われている技術を取り上げるだけでなく，技術革新が身の回りの生活にどのような影響を与えているか，またこれからどう変化していくかを考えることのできる授業を目指した。

3. 授業評価法

期末試験終了後に授業評価アンケートを行った。質問と回答選択肢は以下の通りである。また，アンケートの回答結果を表1に示す。この結果に対する考察は次章で述べる。

- この授業で得られた新しい知識・技能はありましたか？
① 得られた ②・ ③・ ④なかった
- 講義は分かりやすかったですか？
① 分かりやすい②・③・④分かりにくい
- 講義資料への書き込み量はどうか？
① 多い ②・ ③・ ④少ない
- 課題レベルは適切でしたか？

- ① 簡単 ②・ ③・ ④難しい
- 課題の量は適切でしたか？
① 簡単 ②・ ③・ ④難しい
- 試験（最終課題）のレベルはどうか？
① 簡単 ②・ ③・ ④難しい
- （必修科目の単位としてではなく）この授業によって得られた知識・技能はあなたにとって役に立ちましたか？
① 役に立った ②・③・④役に立たない

表1 授業終了時のアンケート結果

	①	②	④	④
問1	10	2	0	0
問2	8	5	0	0
問3	1	5	4	2
問4	4	7	1	0
問5	0	2	7	3
問6	1	6	3	0
問7	8	4	0	0

4. 授業評価結果

この授業では多くの内容を入れ込んだため，講義主体となり，適切な演習や課題を取り入れることができなかつたという反省がある。問4，5にあるように少なくても難しい課題となったようである。ただし，「IHやヒートポンプなど名前を知り実際に使っているが，原理を知らなかつたものについて，簡単な原理を理解できた」や「家電の消費電力は興味なかつたけど，課題で調べたら楽しかつた」などのうれしい反応もあつた。また，「実物を見る機会があつたため，日常生活と関連づけて考えられた」という意見もあつた。今後はより多くの実物や動画を取り入れることを検討したい。

5. 地域社会を核とした教育と研究のつながりについて

本授業は，前述した通り講義主体の内容となつた。この性格から，地域にフォーカスした話題を取り上げることは難しいが，講義中に愛媛県のエネルギーの特性や実態に関する余談を入れたりして，身近な地域に目を向けるように工夫をした。